

あなたの町の「カリタスさん」 (キャンペーン編)



今回は、ブラジル人ほか多数の外国人を擁する安城教会(名古屋教区)について、同教区難民移住移動者委員会のメンバーでもある村上満一さんにご紹介いただきます。



安城教会は、困っている人、助けを必要としている人をサポートし、支援の手を差し伸べることをモットーに毎日を送っています。1985年5月に献堂式を挙げた当初から、カノッサ修道女会のシスター方と一緒に外国人に日本語を教え、彼らが日本の会社で問題なく働けるように手助けをしてきました。その後2003年に外国人を支援する三河カトリックセンターが開設され、より頻繁に外国人たちと関わるようになりました。手助けの内訳は、日常生活の困り事相談から、交通事故や労働災害の交渉など、浅く広く何でも関わっています。

特に最近では、日々報道される技能実習生にも関わり、彼らが

少しでも楽しく仕事が継続できるようにアドバイスや相談に応じています。大事な日本の働き手となっている彼ら外国人に、これからの思いやりや気配りの心を忘れず、支援の手を差し伸べ続けていく覚悟でいます。



ミュージックフェスタ



フェスタジュニーナ

援助実績一覧(2018年9月～12月)

	援助国/地域	援助活動名	援助団体	援助額(円)
国際カリタス緊急支援要請	パレスチナ	移動診療事業(EA22/18)	カリタスエルサレム(Caritas Jerusalem)	554,900
	カンボジア	洪水災害緊急・初期復興支援(EA24/18)	カリタスカンボジア(Caritas Cambodia)	552,800
	フィリピン	台風「マングット」緊急・初期復興支援(EA26/18)	カリタスフィリピン(NASSA)	647,100
	インドネシア	スラウェシ島地震・津波緊急・復興支援(EA27/18)	カリタスインドネシア(Karina)	646,350
	パキスタン	干ばつ緊急支援(EA28/18)	カリタスパキスタン(Caritas Pakistan)	645,300
	ペルー	ペネズエラ難民人道危機緊急支援(EA29/18)	カリタスペルー(Caritas Peru)	555,900
	ハイチ	北部地震被災者緊急支援(EA30/18)	カリタスハイチ(Caritas Haiti)	555,900
	シリア	東グータ地域コミュニティ人道支援(EA31/18)	カリタスシリア(Caritas Syria)	631,900
	エクアドル	ペネズエラ難民緊急支援(EA32/18)	カリタスエクアドル(Caritas Ecuador)	555,900
	海外援助	カンボジア	若者職業訓練支援1/3年目	カリタスカンボジア(Caritas Cambodia)
シリア		国内避難民・イラク難民人道支援	カリタスシリア(Caritas Syria)	1,312,900
ミャンマー		安全な移住労働と人身売買防止対策支援	カリタスマンマー(KMSS)	3,976,700
ミャンマー		人身売買防止と連携した生活生計パイロット事業	ベコン教区カリタス(KMSS Pekhon)	1,729,864
スリランカ		インドからの帰還者支援	カリタススリランカ(SEDEC)	2,272,400
キルギス		南部対象の生涯教育事業	カリタスキルギスタン(Caritas Kyrgyzstan)	1,421,365
キルギス		北部対象の生涯教育事業	カリタスキルギスタン(Caritas Kyrgyzstan)	536,813
トーゴ		アフリカ南部4カ国を対象とした組織強化支援	カリタスアフリカ(Caritas Africa)	3,393,300
バチカン		国際カリタス事務局プログラム	国際カリタス(Caritas Internationalis)	2,588,400
インド		年間一括援助2018/19	カリタスインド(Caritas India)	5,632,500
国内援助	仙台教区	福島外国人実習生・留学生支援	福島外国人実習生・留学生支援ネットワーク	2,000,000
	横浜教区	ギャング依存症回復支援入寮施設事業	かわさきギャングブラス・アドレクションサポート	1,000,000
	大阪教区	外国にルーツがある子ども支援事業	こどもひろば	300,000
	東京教区	移住者の権利キャンペーン2020	移住者と連帯する全国ネットワーク	2,500,000
	横浜教区	全国カトリック手話研究会DVD作製事業3/3年目	日本カトリック聴覚障害者の会	300,000
	高松教区	女性用グループホーム新規開設のための物件改修事業	高知ダルク	1,000,000
	名古屋教区	西日本豪雨災害における生活に必要な家電・備品配布事業	愛の実行運動事務局	1,000,000
熊本地震	福岡教区	仮設住宅などにおける生活に必要な家電・備品配布事業	くまもと災害ボランティア団体ネットワーク(KVOAD)	473,100

編集後記



「排除ZEROキャンペーン」も二年目に入りました。各地での活動者の声は大きなチカラとなって、私たち一人ひとりへと届き、次へ進むエネルギー源となっています。皆さまの経験を分かち合い、全国へ発信していくために、各教会、地域での「排除ZEROキャンペーン」に向けた「取り組み」をカリタスジャパン事務局までお寄せください。事務局一同お待ちしております!



we are Caritas



No.15

2019年
2月号

通算発行番号No.321

You can read the text of this newsletter with Google Translation @ <https://www.caritas.jp>

カリタスジャパン啓発部会では、約10年前より「自死と孤立」をテーマに活動してきました。当時は国による自殺対策も始まったばかりで、カトリック教会でも全国的な自殺・自死に関する実態は明らかでなく、アンケート調査を実施して結果を冊子にまとめ全国に配布しました。

その後、NPO団体や仏教などの諸宗教者、既に自殺問題に取り組んでいた韓国との関係者とも交流しながら、全国で「自死と孤立」について勉強会やセミナーを開催して分かち合い、誰もが身近な人の死にたいほど辛い気持ちに対して「ゲートキーパー」となるよう、「いのち支えあう連続セミナー」も実施しました。今日、自殺・自死の問題は、以前よりは社会的課題として扱われるようになってきたものの、いまだ多くの人がそこへ追い詰められるように排除されています。そこで私たちは「排除のない多様性社会を目標して」というテーマで活動を継続し、まず身近な生活の中にある現実を共有することから始めました。本号に「四旬節×啓発部会に寄せられた声」として内面で紹介している事例からは、具体的に経験した排除を多くの人に知ってほしいという思いが読み取れます。

四旬節にあたり、笑顔で両手を広げる教皇フランシスコの呼びかけに添えて、現実を映したこれら一つ一つの「声」に耳を傾け、ともに考える機会にできることを願います。



宮永 耕 (カリタスジャパン啓発部会秘書)

カリタスジャパンの活動へのご支援を今後とも
よろしく願っています

カリタスジャパンの活動は皆様の日ごろの募金と四旬節「愛の献金」によって支えられています。募金専用のゆうちょ銀行払込票をご用意しておりますので事務局までご請求ください。

- 匿名をご希望の方
払込票の所定の欄にレ印、または通信欄に明記ください
- ご意向について
払込票の所定欄にレ印、または通信欄に明記ください
- * 記入がない場合は「最優先の援助先」とさせていただきます
- * 「呼びかけ/受付中の募金」は、カリタスジャパンのウェブサイトにてご案内しております

【2018年9月1日～12月31日の献金額】
(単位:円)

CJ運営寄付	3,360,892
本年四旬節	35,896
国内援助	7,450,758
海外援助	11,878,864
クリスマス募金	18,345,205
東日本大震災	3,489,666
熊本地震	991,015
西日本豪雨災害	24,096,596
スーダン支援	170,895
メキシコ地震	58,771
排除ZEROキャンペーン	923,134
マンズリーサポーター	2,587,500
合計	73,389,192

We are Caritas No.15 (2019年2月号)
通算発行番号No.321

郵便振替番号 00170-5-95979

宗教法人大カトリック中央協議会 カリタスジャパン
発行人 菊地 功
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
TEL:03-5632-4439 FAX:03-5632-4464
Email:info@caritas.jp URL:https://www.caritas.jp

<https://www.facebook.com/caritasjapan>

四旬節「愛の献金」キャンペーン

今年も3月6日の灰の水曜日から四旬節が始まりました。「愛の献金」にご協力
よろしくお願い致します。資料は灰の水曜日までに各小教区などにお送りして
います。追加など必要な場合はお問合せください。



●「四旬節2019」小冊子(カレンダー付き):
教皇メッセージ、四旬節献金支援先、
「愛の献金」趣意書、四旬節キャンペーン報告



●ポスター



●組立て式募金箱



●献金袋

●外国語趣意書(7カ国語)

黙想会

期間中、「排除ZEROキャンペーン」をテーマにして黙想会を行います
(カリタスジャパン共催)。お問合せはカリタスジャパンまで。

3月10日(日)10:00～13:30	指導:瀬戸高志神父
場所:松山教会(高松教区)	
3月17日(日)10:00～15:00	指導:瀬戸高志神父
場所:丹後教会(京都教区)	
3月24日(日)9:00～12:00	指導:瀬戸高志神父
場所:高幡教会(東京教区)	
3月24日(日)11:00～15:00	指導:イグナチオ・マルチネス神父
場所:市川教会スペイン語コミュニティ(東京教区)	
3月31日(日)10:00～13:00	指導:瀬戸高志神父
場所:千葉寺教会(東京教区)	
4月7日(日)10:00～15:00	指導:瀬戸高志神父
場所:上田教会(横浜教区)	
4月13日(土)19:00～21:00	指導:瀬戸高志神父
4月14日(日)9:00～12:00	指導:瀬戸高志神父
場所:諏訪教会(横浜教区)	

生きづらさを抱えて

私は、戸籍上は女性ですが普段は男性として生活しています。将来は戸籍も変えたいと思っていますが、カトリックではそれは罪に当たるとか結婚してもそれは秘跡になるのか分かりません。洗礼は神父様の了解で男性として受けました。教会内では私の戸籍上の性別を知っている信徒さんはいないです。おおっぴらにカミングアウトはしたくないですが日々もやもやしたまま教会に行っており、その不安もあってミサ以外の青年会や奉仕などの活動に参加したくても躊躇してしまっています。

教会で、神父と一部信者から暴言を受けました。元々うつ病気味だったので、あまりしゃべれないのと、コミュニケーション能力が上手くないからなのですが、人格を否定するようなことを何度も言われました。しんどくなったら抵抗することもできたのですが、しんどくて抵抗する気力もありませんでした。その後、半年以上もトラウマに苦しみました。何故、人にはいろいろな事情があるのに、全てわかっているかのように臆測で判断し暴言を吐いてくる神父や信者がいるのでしょうか？助けを求めても罵倒され、地獄でした。

私は立ち居振る舞いと言葉遣いが悪いせいで、人を怒らせて教会に行けなくなりました。私は友達ができなかった過去があるせいか、人一倍それらについて怒られることが多いのです。昔私はいつも家族を怒らせてばかりで、それは多分立ち居振る舞いや言い方のせいだったかもしれないけど、つらかったです。それで怒られてオシマイで、人を不快にさせない言葉遣いについて独りで努力するばかり。このことに関しては独りの努力では厳しいと感じています。

私は元受刑者です。そのことを公にしたところ「何の罪を犯したのですか」「近寄るな」と信徒の方たちに言われました。自分の仲間も同じような体験をしています。また刑務所にいる受刑者から「教会に手紙を出しても返事さえない」と聞きます。元受刑者も、社会復帰したら同じ人間です。初対面の方から過去のことを問われる必要はないと思います。とても傷つきます。聖書の学びに対しても元受刑者が参加するのを嫌がる人が多いです。

ある男性に、信者の皆さんの前で「あなたは話しぶい。存在感がないんだよね」と言われました。幼少期から吃音が少しあり、話下手な私でしたが、教会での今までの努力が水の泡となった瞬間でした。他の皆さんはただ黙っているだけでした。惨めになり、涙が出ました。食事会でも私の隣りはいつも席が空いておりました。その他色々辛いことをされて、教会にもいじめがあるのだと確信し、その教会を離れ今に至っております。

column コラム

30数年前に日本カトリック障害者連絡協議会(以下、カ障連)が全国の障害当事者へ実施したアンケートの資料が出てきました。「『祈りの妨げになる』という理由でミサ中の動作の案内が少なくなっているが、視覚障害者には周りの判断が出来ない」「主任司祭から『健康な体でない』と健全な信仰は持てない」と目の前で言われた」「教会は障害者に対してほとんど配慮がなく、障害者は教会に来てはいけないような気持ちを味わわれることが多い」「子どもが重い知恵遅れのため、教会に行っても大きな声は出す、多動、皆さんに迷惑をかける。教会へ連れていけない家族もだんだん遠のきました」とありました。今はどうなのでしょう？

この30年の間には、社会の障害に対する考え方も変わり「障害とはその当事者の肉体的な問題ではなく、社会環境が障害を作っている」という「社会モデル」へと変わってきました。2017年に行ったカ障連のアンケートでは、教会に障害者がいると答えた教会は1.1%でした。日本の一般障害者率は5.6%(世界の障害者率は10%)であり、あまりに少ない数字です。本当に教会の中に障害のある人はいないのでしょうか？

声を出せないでいる人々が一人でも多くカ障連とつながり「完全参加と平等のミサ」に与り、イエスのみことばに包まれて「生まれて来て良かった」と思える日がくることを願ってやみません。

日本カトリック障害者連絡協議会 会長 江戸 徹

四旬節×排除ZEROキャンペーン 啓発部会に寄せられた声



争いのない、自由で平和な社会は、私たち人間が目指しているところだと思います。しかし近年、私たちの社会では、特定の民族や国籍の人たちなどを誹謗中傷したり、自身の配慮を欠いて、無意識のうちに様々な形で様々な人を、社会から、自分たちの仲間から排除しようとする傾きが私たちの中にあります。排除とは何なのか。排除をなくすために何ができるのか。どこに問題があるの

か。皆さんと一緒に考えていきたいと思います。以下の啓発部会に寄せられた声に耳を傾け、一人ひとりの命の尊厳、人と人との互いに支え合う絆の大切さ、お互いの人権を尊重し多様性を認め合うことの大切さについて、もう一度皆さんと一っしょに考え、復活祭へ向けての良き準備となる一助となれば嬉しく思います。

カトリックの教えと現実とのはざま

友人から聞いた話ですが、告解場で神父から「あなたは地獄に行く」と言われたそうです。また、他の友人からは「離婚・再婚のためにミサにあずかれない」と聞きました。教会が七つの秘跡を尊重するなら、なぜ秘跡について広く、深く解釈しないのでしょうか。倫理道徳を解くカトリック教会にはもうウンザリです。キリスト教の本来の最終目的は「絶対なる救済」にあるはずで、司祭のハラスメントが常に、堂々として行われています。カトリック教会の上層部の猛省を望みます。

その人は、教会で降誕祭に洗礼を授かる予定でした。しかし、同性愛者であり、同性パートナーと生活をしていることを神父様に事前に打ち明けたところ、「洗礼することはできない」と数日後に回答されました。その人は幸い、その後、理解ある他の神父様によって、カトリックの洗礼を授かることができました。

私は、数年前に洗礼を受け、同時期に離婚をしました。入門講座の担当だったシスターから「あなたは洗礼を受けるのが早かった」といわれ、代父母との間が険悪になり、所属教会から足が遠くなりました。引越した後、所属教会ではなく、近所の教会に足を運んでいます。誰との交流もなく、共同体の一員であるという意識を持ち得ていません。

日本の教会はミサの聖変化などの時の跳きや、口での聖体拝領を禁止していますが、これこそ典礼の多様性の排除ではないでしょうか。

column コラム

ここに挙げられた例のようなことが「常に、堂々と」行われているかどうかは別にして、教義や法を盾に取った司祭によるハラスメントについては、司牧に携わる者の謙虚な反省と自戒が必要であると思われます。なぜなら、司祭は教会の中で一定の権威を預かる者だからです。司牧者が

法や規則などを適用する際は、教皇フランシスコが強調されるように、愛を第一にした司牧的配慮が求められ、そのための生涯にわたる研修が望まれます。離婚・再婚のために教会共同体から排除され、ミサにあずかれない事はありません。

啓発部会

そのほかに、社会正義の名の下に反改憲、反原発、在沖米軍基地運動などの問題ばかりが取り上げられ、そこで生計を立てている人、携わっている信徒が教会へ行けなくなっているという事例や、司祭からの性暴力、暴言や罵声などで教会に行けなくなってしまった事例、司教、司祭などが消極的な関わり

や態度を取るによって、排除や差別を助長してしまっている事例や声などがありました。紙幅の都合上、掲載できなかった声がありましたことをお詫びするとともに、勇気をもって声をあげて下さった皆さんに感謝いたします。

同じ信仰の道を歩んでいるのに

以前所属していた教会では、古くからの信徒とその知り合いからなる信徒会の役員で固まっており、知り合いのいない人間にはその輪に入れない雰囲気が漂っていたので、仕事のせいにして教会から20数年間も離れてしまいました。積極的に行動力のある人なら、何のこだわりもなくみんなの輪に入れるのでしょうか、誰でもそういう風にはなれないと思います。これが目には見えないけれど排除の実感だと感じていますし、こんな小さなことから排除に至っているのではないかと思います。

仮放免のスリランカ人が生活に困って、教会に行きたくて助けを求めたが、追い返されたと電話してきました。自分たちと関わりのない人として冷たくあしらわれたそうです。とても残念に思います。

外国人が日本で生活している中で直面している現状に関して、全く無知のまま、というより知ろうとせず「日本のやり方」なるものを押し付けられます。

20代後半の時、他の兄弟姉妹(信徒)に心無い言葉や相当なプレッシャーを浴びせられました。特に団魂世代の長老は言葉の暴力は当たり前で、全人格を否定されました。今の教会に行けるまでに長い時間がかかりました。

知人が教会の許可を得、教会の一室を借りて、日曜日のミサ後、ベトナムから働きに来ている青年数人に日本語を教えていました。ある日、神父らしい方が来られ「使わなくていい」と強い口調で言われたようです。別の教会を使わせて頂くという話も出ましたが、部屋の使用に十数件におよぶ条件が出され、とりやめになりました。

小学2年と幼稚園の母です。主人の転勤により教会を変えました。日曜学校に行ったのですが、居場所がありません。上の娘が初聖体を受けていないのでこどもミサには参加できないのか、説明もなく、隅に座るように指示され、本人もどうしてよいかかわらず、日曜学校に行きたがらなくなりました。

大きな教会で、聖堂に入ると数人から窺うような目線向けられ、居づらい思いをしました。騒がしくしていたわけでもなく、靴の音もうるさくないように精いっぱい気を付けたつもりだったのですが…、あまり見ない顔だと不審な感じがするのでしょうか。教会は誰にでも開かれた場所であると思っています。初めて見る顔であってもあまり気にすることなく話しかけて頂くか、いつも通りにしていただきたいと感じました。

教会の奉仕において、わからないことを質問すると「あなたは信者として浅いから」「○○さんは名前が名簿にないから奉仕できません」と無視されました!! 意見を言わせてもらえません。

若い世代が教会にいません。信仰はあっても共同体となると、個人同士の摩擦で参ってしまう。人間は違いがあるという前提に立つことがまず大切だと思います。

身体が不自由になったご主人の為長年タクシーでミサに通われ、そのご主人を天国へ見送ったある女性の事です。教会にいつもきれいなお花を飾って下さっていました。神父様にも寂しい思いを良く話されていたようです。そのことを非難されたようで、今では全く教会に来られていません。別にお花代を要求されたわけでも、誰に迷惑をかけたわけでもなく、ただ「目ざわりだ」という理由です。色々な思いを持って教会で神様に癒され、また元気になって生活に戻るのに人間を恐れて教会へ行けないなんて悲しいです。

排除ZEROキャンペーン

リレー写真展

入場無料

キャンペーンをテーマにしたリレー写真展を企画しました。

各教区で右の通り実施します。

時間、場所など詳細は追ってお知らせします。皆様どうぞお越しください!

日付	開催教区
3月3日(日)～3月31日(日)	長崎教区、京都教区
4月7日(日)～5月5日(日)	高松教区、東京教区
5月12日(日)～6月9日(日)	鹿児島教区、横浜教区
6月16日(日)～7月14日(日)	那覇教区、大阪教区
7月21日(日)～8月18日(日)	広島教区、札幌教区、さいたま教区
8月25日(日)～9月22日(日)	新潟教区、大分教区

名古屋教区写真展を振り返って

見平 隆(名古屋教区カリス社会福祉委員会)

昨年12月23日からクリスマス、年末年始をはさんで北陸ルートと東海ルートの2コースで実施した写真展は1月20日に終了しました。講話、分かち合い、ビデオ鑑賞など教会ごとの取り組みで、多くの人に「きっかけ」を提供しました。ある教会学校ではクリスマス前の「イエス様を待つ会」でシスターの協力により「排除」について一緒に学び、子どもたちはそれぞれの実生活から考え、分かち合いの後全員で「リンゴの木(*写真)」を作成し、学んだ後の生活に活かせるようにと祈りを深めました。各教会で外国にルーツを持つ人も「教会が出發地である」など多くのメッセージを寄せ、参加者からも「お互いを知ることから始めたい」などの声も寄せられました。



多治見教会教会学校の子どもたちが作成した「リンゴの木」*



多治見教会での講話



魚津教会での分かち合い

福井教会でメッセージを書いてくださる方々